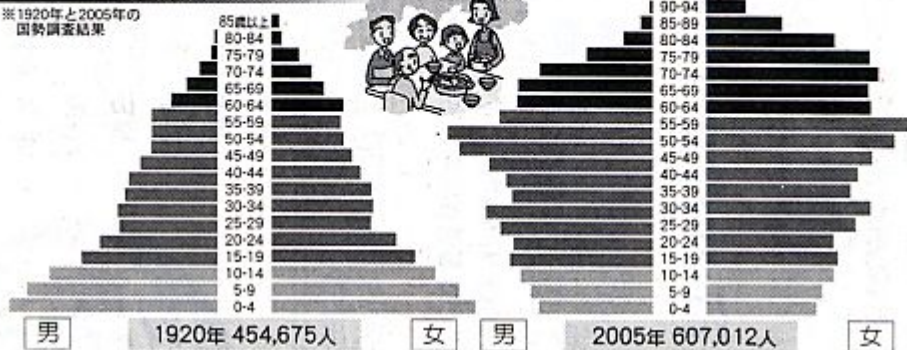


鳥取県の人口構成の変化

※ 1920年と2005年の
国勢調査結果



暮らしの
統計数字

減少続ける年少人口割合

09.10.25 (247)

「文明国の仲間入り」を合言葉に、国をあげての一大行事となった大正9年の第1回国勢調査結果によると、鳥取県の人口総数は45万4675人。そして平成17年の国勢調査では60万7012人と85年間に1・3倍に増加しています。

さて、この人口の構成はどのように変化したでしょうか。5歳階級別に総人口における割合を積み重ねた「人口ピラミッド」で見てください。

大正9年は15歳未満の年少人口がしっかりと野を駆け、15歳から65歳未満の生産年齢人口、そして65歳以上の老年人口へと、なだらかな「富士山型」をしています。元気な子供たちの声が聞こえてきそうです。

一方、平成17年は出生数の減少、若者の県外転出、高齢化などにより人口構成が大きく変化し、底辺に向かって縮小する、いわゆる「つぼ型」と呼ばれる形を示しています。

現在のまま年少人口が減少を続けると、平成47年には50万人を割り込むと国立社会保障・人口問題研究所は予測しています。

少子化対策を充実させ、安定した人口構成をなんとか取り戻したいものです。

(鳥取県企画部統計課
第4日曜日に掲載)